

現地語の歌を通じ国民的人気を得た JOCV

在モザンビーク日本国大使館

2015年10月から2017年10月にかけて、体育教員としてモザンビーク・ガザ州マシアに派遣された青年海外協力隊員（JOCV）・鈴木光飛斗さん（みっちゃん）は、その明るく人なつっこい人柄からあっという間に学校で人気者になりましたが、これにとどまらず、障害を抱える子供が多く通学する学校であったことから、ふれあいの手段として音楽に注目し、ギターを片手に現地語で歌う様子をSNSで発信したところ、一躍国民的人気を博すことになりました。

テレビ・ラジオ・音楽イベントへの出演は数知れず、現地の国民的人気歌手とのコラボレーションや全国放送でのドキュメンタリー特番の放送など、本業並みに多忙となり、任地のガザ州と首都マプトを往復する生活が続きました。

鈴木さんは、スポーツと音楽を通じ、生きる楽しさを伝えることができたと語り、任期終了後は日本で大工を目指すと言っていましたが、アーティストとしてきっと戻ってくると皆が思っています。